

## 法律科目試験 「刑事法系」 問題

I 次の事項について、400字以内で説明しなさい。

- ・名誉毀損罪における真実性の錯誤

II 次の事例における甲と乙の罪責を論じなさい（特別法違反の点は除く。）。

甲（男、25歳）、乙（男、25歳）、X（男、21歳）は遊び仲間であったが、甲と乙は、Xが年下であるにも拘らず自分達に対する態度が大きいことに、平素から不満を持っていた。或る日、甲と乙が二人で飲んでいた時に、Xへの怒りが噴出し、Xに物理的制裁を加えようということになり、その際Xが多少の怪我をしても構わないということに相談がまとまった。そこで二人は、制裁に用いる道具を求めて運動用品店に行き、乙の支払いで木製バットを二本購入すると、Xを公園に呼び出した。

しばらくして姿を現したXに対し、先ず甲と乙は強い口調で非難を加えた。するとXが謝ったため、乙は実力を行使するに及ばずと考えて、甲にもその意向を伝えた。しかし、腹の虫が収まらない甲は、Xをバットで殴る当初の案に固執した。乙は甲を3、4分間説得したが、甲がどうしても考えを変えようとしなため諦めて、「俺帰る」と言うと、Xを殴るのに使えないように、バットを二本とも携えてその場を立ち去った。

バットを取り上げられたことで、後に残った甲の気持はXをこのまま解放する方向に傾いた。しかし、甲がなおも迷っている間にXが露骨に苛立ちを見せ始め、乙が去った約10分後に「俺も帰る」と言って立ち上がった。これをXの反省心の欠如と受け取った甲は激昂し、手拳でXの顎を一発殴打した。この暴行によりXは失神すると共に、全治2週間の傷害を負った。

甲は、意識を失ったXを見て、Xがいつも大金を持ち歩いていることに思い至り、その懐中を探ったところ、現金20万円が入った財布が出てきた。甲は、この金を遊興費に充てようと考えて抜き取り、自分の財布に入れ、公園を後にした。